京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京都⑦8111（学内142番）
⑰2084
振替・京都3909
1部（15円）

7月11日
7月18日
合併号

第8回 全寮連大会をみて

白杉潔司

全寮反主流派寮の代議員権、対案問題をめぐって紛糾に次ぐ紛糾を重ねた第八回全寮連大会は、日共系学生、労働者（新聞報道によれば、日共千代田細胞約二百名）の会場への殴り込み、東京学生会館、東学大雄迦寮学生など全寮連反主流派との乱闘というコースを辿って終結し、数十名の負傷者を出すに及んだ。私は大会へ出席した寮生として、"暴力事件"の本質とそれに至る事実経過を明らかにしたい。

▽七月一日—東学大雄迦寮にて—

三十日夜京都を発った私は、まず東学大雄迦寮へ向った。招請状も受取らなかったため大会の会場もスケジュールも全く知らなかったことがその第一の理由。第二点に、雄迦寮は、二年間にわたって新寮闘争を闘い、国管規定、負担区分撤廃の全国共闘を追求する寮として、相互的な連絡を保ってきた—今回、都と全国の状況、彼らの分析と運動論に対して、より明確な把握を得るためだった。

池袋から西武線で三十分、埼玉との県境に近い東久留米は東京という感じからは、ほど遠い町だった。山の手の松林の間にある雄迦寮、静かで玄関には誰もいない。玄関正面の会議室から慣れた調子で話す声が聞えたので直接そこへ行くと、会議というより会合中という感じで、十人程度の男女学生が熱心に話し込んでいた。

出席者は、東京学生会館、秋田大、埼玉大、雄迦寮の四寮代表者。討議内容は、全寮連大会へ提出する対案の内容であった。そして更に、対案を提出した四寮代表（東学館、雄迦寮、お茶大大山寮、東大三鷹寮）が現在全寮連中執から呼出しを受けていることが明らかにされた。東学館、学大、お茶大、三鷹と新寮協議会事務局（四寮の他東工大、東外大、医科歯科大などによって結成されている都段階の共闘組織）の共同提案とお茶大独自の対案について討論を行ない、また各寮の総括、問題点を挙げ、いかにして個別闘争を全国的な闘争へ組織して行くのかという問題について話し合っている時（四時四十分）、中執と交渉した代表から連絡があった。東学大、東学館については、

①四十年度連費が未納である。

②新寮協議会は、都寮連、全寮連を分断し、分裂させる行為である。

③昨年の六・二三文部省デモにおいて、分裂行為、暴力行為を働いた。

お茶大、三鷹寮については

①対案の「書記局派」という言葉は全寮連を認めぬものである。

②新寮協に加担している。

の点で代議員権は認められないし、対案も当然認められないとの中執の見解が明らかにされた。

雄迦寮は「何が故の剝奪ぞ」と題するビラで次のように訴えている。

①「一昨年来二年間にわたる、授業放棄、バリケード闘争（国管規定、負担区分を伴う新寮建設指否闘争）二週間にわたる全学ストライキなどの相次ぐ激烈な闘いによって雄迦寮会計は多大な赤字を抱え、その回復に必死に努力して来た。現在も寮会計再建委員会を設置して……。『納入に関する明細書を提出せよ。』ということに対して、この十一月までに支払うことを確約したはずである。」

②「雄迦寮々生は、われわれ自身の闘いを通して得たわれわれ自身の運動論を持っている。このことは単に雄迦寮に限らず、東学館、医歯大、お茶大、三鷹等々の寮友にとっても全国の寮友にとっても同じであろう。共通の課題を抱えた寮が、より綿密な運動論を形成し、共同行動を取る、その場としての新寮協は当然認められるべきであるし、全寮連の内容をより充実させて行くものでさえある。」

③「六・二三文部省デモは、新寮攻勢の具現としての東学館、あるいは東学大処分撤回闘争、その他諸々の寮問題に対し、文部省に断固たる抗議をもって行なわれたが、寮連書記局は何如なる態度と取組みを以って、これに臨んだであろうか。その自己批判なしに、この問題は一切語れない。」

東学館もほぼ同様の見解を取っており、三鷹に至っては、「新寮協は身に覚えのないこと」（参加していない）と抗議している。原則的に言えば、全寮連は、全国の寮の代表、有志が個々の寮の問題を相互的に報告し合い、いかにして全国的な規模での闘いを進めて行くのかを討論し、実際に共同行動を集約するための機関でなければならない。そのためには、いかなる意見を持つ寮も出席する権利を持ち、対案も当然認められねばならない。また、規約の上でも、権利を剝奪する権利は、中執にはなく、対案の賛否は大会に出席する全国の寮友にはかられるべきであるとする彼らの要求は原則的であり正当である。昨年は阪大宮山寮、一昨年は宇都宮大志峰寮など、相当激しく全寮連の方針を批判した対案が認められており、対案を認められなかった前例を私は見ない。常識的にも、対案のない大会—即ち反主流派勢力の存在せぬ全寮連—は、それが真に全国寮自治会連合であるならば、考えられない。では、何のためにこのようなことが行なわれようとしたのか？中執が基調報告を出したのは、六・二九夜であり、対案の締切は三十日朝であったこと、更に基調報告を十分に検討することが不可能な状況の中で、徹夜で作成された対案に、強圧的ないいがか [illegible] 物でもない！第八回大会を成功させるために、彼らは代議員権剝奪をも敢えてしたのである！確かに、都寮連段階での、新寮協と書記局には、運動論の対立が明確であり、その勢力は十数議席程度の差しかなかったことである。十時過ぎに会場に着くと会場前で、お茶大の代表三名、オブザーバー一名と副委員長他数人が押し問答をしていた。

「昨日の確認事項がすり換えられた。」「現在の中執確認は①全寮連の組織を認めるか②全寮連第八回大会を認めるかの二点である。」に始まり、「全寮連書記局は第七回大会で承認されたが、それを『書記局派』と呼ぶことは、全寮連が一つのセクト集団であり、全寮連を認めないという意味なのか。」の問いに対し、「何度もいうように、全寮連を認め、第八回全寮連大会を認めるからこそ、代議員権を要求し、対案提出を認めて欲しいといってるんです。」大山寮の代表が答える。「書記局派という言葉は、明確に方針の違う集団を表わす程度の言葉でしかありませんし、多数派を表すもの……。」「とにかく入れて下さい。良いか、悪いか、大会で [illegible] で大山寮の代表を入れようとしなかったのである。数十分にもわたって押し問答が続けられ、お茶大の代表は疲れて、「とにかく大会ではっきりしましょう。」を連発し、彼らも「認められない。」の一点ばり。私もいい加減あきれてしまったその時、東学館、雄迦寮の学生が十数人やって来て交渉に参加した。「昨日の確認と違う。」「現在の条件でも当然代議員権は認められるべきだ。中執には、それを剝奪する権限はない。」「入れろ。」「入れない。」「委員長秋広を出せ。」副委員長が階段を登って行く時、はじめて気付いたのだが、階段には"警備"の腕章 [illegible] ますます多くなり、階段の最上端まで、ぎっしりとピケットが完成されてしまった。資格審査委員長が隊列を押し分けて、階段を降りて来た。最後通告—「中執の確認は今日挙げた三点であり、三点について明確な答がなければ、認められない。」—が資格審査委員長白川氏によって通告された。「白川！昨日いったことは嘘か！」「中執を出せ！」怒号が飛び、東学館、雄迦の学生が白川氏につめより、胸ぐらをつかむ。辛うじて東学館の代表がそれを止め、「再度！再度です！われわれはここで要求します！われわれは、全寮連の指導が全国的な情勢に対応し得ていない、その確認の下に、われわれの運動論、われわれの闘いを通して得てきた運動論を、第八回全寮連大会に出席する全国の寮友諸君に明らかにすべく、全国 [illegible] し、大会においてその賛否が問われるべきであることを、確認したいと思います！」早口で、叫ぶように、学館の代表がいう。「意義なし！」の声が、お茶大の学生の高い声も混って、何度も起った。「中執の見解は変りません。」白川氏は頑強に拒否する。「馬鹿野郎！」「セクト主義！」「固くスクラムを組んで下さい！」「ピケを解け！」もう誰も待ちはしなかった。怒号と共に学館、学大の学生がピケに突進する。二階の踊り場は大混乱におち入り、階段の中途で押し合い、もみ合って両者とも何人かが階段を転げ落ちる。隅へよけていたオブザーバー、代議員が更に廊下へと避難する。ピケが解体されて55番教室へ入ると、「トロッキストが乱入して来ました！危険ですから避けて下さい！」議長が叫んだ。東学館の学生が壇上にバラバラと上り、「大会を続行します。現在の状況が何故に…」と喋り始める。だが委員長は、内容ぬきの"暴力"キャンペーンを張って、中庭へ出るように指示する。残った代表者一人一人に、"主流"の学生がオルグをかけて、反主流系の寮と私が知っている寮の代表の他に残ったものは数人だった。われわれは、山形、秋田、新潟、岐阜などの代表と共に集会を開いて交渉の結果を待ったが、中執は交渉する一方、会場を、東大駒場へ移していたのである。

東大学館前にはまたもやピケットが張られていた。今度は巧みに [illegible] たのである。

状況が続いた末、四寮代表と中執との間に、再度話し合いが持たれることになって、私は関西地方寮連の分散会に出席することになった。ここでまたうんざりする程のセクト主義的運営に遭遇しなければならなかった。「暴力による大会破壊行為は許せない」といったことがいとも調子よく、内容抜きに討議されていたので、腹にすえかねて発言すると「君は誰だ。」と議長（関西寮連委員長、大阪外大花園寮）が問い、オブザーバー証を持っていないのを知ると（持っている筈がないではないか）「オブザーバー証を書記局まで取りに行って、資格審査を受けねば出席 [illegible] 執の取った態度は誤りであった」という提案を歪曲し、長々と述べたてて引きまわし「あらゆる暴力……」と完全に対立する決議であることにし、もっと重要な討論に移って胡麻化してしまった。何と無意味な討論であったか。私は拳手をやめてしまった。暴力が良くはないことは当然であるからである。

資格審査のあいまいさ

暴力キャンペーンで会場移す

▽七月三日—明治九十五番教室—

二日の話し合いで中執は四寮の代議員権と対案を認めた。四寮の主張は変らず「書記局派」の言葉も対案にそのまま書かれている。このことは中執の代議員権利剝奪の理由が、何ら正当性をもっていないことを証明している。中執の反対意見禁圧の意図とその不当性は自明であろう。だが、私が甘んだのはつかの間である。彼らの陰謀はより深くより陰険だった。中執は明らかに方針を転換したのだ。この大会から"分裂主義者"を締め出し得なかった彼らは、"暴力"キャンペーンを大々的に行い、追放することを決意したのだった。

大会二日目は秋広委員長が基調報告を行う。「小選挙区制は『民主主義』に重大な関係があるといわれています。共産党は『小選挙区制は憲法改悪への布石』といっています。全学連は『軍国主義復活への道に通じる』といっています。もしそうならば、寮の自治と民主主義のために寮生が、団結して闘わねばなりません……」という表現を皮切りに「この一年間の闘いは飛躍的に発展しました〇〇〇大学では広汎な人々の団結により××を獲ち取りました」と少い獲物を挙げ「闘いは前進しています」「△△は獲得できませんでしたが、団結して粘り強く闘っています」ETC—彼らは、敗れる [illegible] が激烈な個別闘争の限界を彼ら自身の総括から体得し、共同行動を取ると言う、それを分裂活動としてしか把え得ない。「ストライキの期間中も、一日の行動が終ったあと、必ず寮生大会が自分達の要求が正しいことを確認し……。」闘いの中にも、映画会、大掃除／廃品回収などをやり、一部の寮生の闘いにしてしまうのではなく、全員が心を一つに……」「あくまで正しい要求を貫いた商船大の闘いは、客観的には当時の日韓闘争の中に大きく合流し、全国の寮を限りなく励まし、反動勢力を動揺させるものでした」（神戸商船大の総括）全寮連の教条「デモは大衆へのアピールである」を忠実に守り、銀座でデモった彼らの発想を「創意的な運動」と評価させるを得なかった。全寮連の指導は完全に破産している。商船大が〇管規、負担区分撤廃に起ち上り、どのように反動勢力と対決し、どこまで獲得目標に近づきえたのであろうか。〇管規も負担区分も運用されながら「寮を闘ったから、日韓反対を勝ち取った」などというピント外れな総括を出し、勝利だったということは許されない。

い。「スリッパを勝ち取った」というのも総括され得るのが彼らの闘いなのである。

対案の後になされた各寮、寮連の特別報告があった。トップの岩手県寮連"新入寮生歓迎の闘い"と題して、"諸要求ぶちまけ過闘"を作り「飯がまずい」「寮が汚ない」「ピクニックに行きたい」ETCの要求を取り出し、「全寮連旗を掲げてピクニックに行きました」「寮祭の時、女性の方が多いようなダンスパーティーを勝取りました」「一部の人々は全寮連の方針を否定しますが私は自信を持っていいたい。組織拡大とはこんな風にやるんだと。団結はこんな風に勝取るんだと。」一体、組織とは何であり団結とは何なのか？慣れ合いで組織し団結するわけでもあるまいがと思う。商船大の報告にいみじくもいわれているように、「自民党支持者から共産党支持者まで左も右も一致点を見出して闘い得る」それが彼らの団結であり組織であるのか。彼らの基本方針は教条であり、教条に沿ってのみ総括される。分析ぬきの総括は現実に民々統一戦線の破綻をきたしている。対案で十分に批判されながらも彼らは自己批判的に総括することしかない。例えば攻勢そのものはまさしく負担区分〇管規定なのである。寮の問題のすべてを最も強烈に完全に具現しているのが新寮問題であることを認めず「民主的新寮を獲得しよう」というスローガンの下に、自由のある新寮を獲得する運動としてでなく寮生の直接的な意志に基いて（民主的に）新寮を獲得しようという諸要求貫徹闘争の一環としての運動に新寮闘争を解消している。ムチを受けるつもりなら、支配者は喜んでアメをくれるだろう—それを獲得したと総括する彼らは、全寮連反主流の諸君

特別報告全体は最終的に「全寮連の方針を忠実に（商船大のように）守り、闘う中で、全寮連の方針を素晴しいと思った」という点に集約されており、分析ぬきに宗教のような方針の正しさを証明されても、何らわれわれの闘いの教訓となし得ない。さらに（若干問題が外れすぎたが）「われわれの闘いは飛躍的に発展しています」といい、「トロッキストの暴力による大会破壊は許せない」「大会を成功させるために頑張ろう」と最終日の処分決定の布石として、反トロキャンペーンを彼らは決して忘れなかった。そのたびに、怒声と野次が飛ぶ—が、拍手と「頑張ろう！」のシュプレヒコールにかき消されてしまう。その後、自由討論に入り大会二日目を終了した。

ルポ 全寮連の現段階

全寮連第8回大会は3日から東京明治大学において行なわれたが執行部を握る主流派＝民青系と、反執行部派とが、代議員権、対案提出などをめぐり、暴力事件をひきおこすことになった。最近、学生運動に関しての傷害沙汰が少なくないけれど、単に事象の現象面だけの把握をするならば、本質そのものを見逃すおそれがある。今回の全寮連大会に出席した寮生に当時の状況だけを記述してもらった。　（編集部）

武装してきた"警備員"

事の本質討論されず

▽七月四日—明治九十五番、乱闘事件—

前日に続いて自由討論が行なわれた。"暴力事件"を大々的に宣伝しようとする主流派は何をいったあとにも"暴力反対"を付加し、学館、雄迦などが「われわれの確認事項三点に対する主張は変わらない。『書記局派』という言葉も撤回していない。われわれの代議員権要求は正当な権利の主張であり、大会第一日の中執の態度は明らかに不当である」と叫ぶように主張する。だが、中執は「三点について認めたから代議員権を認め、対案を認めた」と言い張っていた。対案であるから文字になって残ることは必定であるにもかかわらず、中執は非を認めようとしなかった—そこに、私は動かし難いものを見たのだ—不当にも。四寮を支持する発言をしたのは阪大宮山寮のみだった。そんな状況の中で、岐阜大寮が脱退宣言を発する。脱退すること自体、敗北ないしは一定の後退を意味するものであっても、そんな彼等に共感を感じた。午後の財政報告の時、気付いたのだが連費の未納分は五十万円にのぼっている。東学館、雄迦を合わせて三万円、その他の四七万円は何ら問題にされず、東学館、雄迦のみが、滞納の故に代議員権停止を通告されるのか？「書記局派」の問題にしても、連費の問題もいかに根拠無しにデッチ上げられたものかが明白である。

「基調報告と対案の採択を行ないます。」と議長がいったとき阪大宮山寮が発言を求めた。「全寮連の出している『新寮闘争の歴史』というパンフレットに阪大宮山寮の報告があるが、著しく事実が歪曲された誹謗と中傷の総括がなされている。『誤った指導の下の闘争』と題して書かれたことと総括は寮内小数派、分裂組織であるところの全学連支持会議の者が個人で書いたものであり、直ちにこのパンフレットの撤回を要求する。」「われわれの闘いは全寮的に確認されており、宮山寮を代表して書記局に抗議し、この報告を勝手に選択したことについて自己批判を要求する。また、全学連支持会議と全寮連の関係を明らかにせよ。」「時間がない。」「『新寮闘争の歴史』は半年前に出されたものであり、もっと早くいうべきである」「選択は書記局の自由である。」「ナンセンス！」「答えてみろ！」即座に東学館が発言を要求。「全寮連通達に『全寮連に結集して闘う仙台、名古屋、京都の学生会館に、集中的に仮処分の攻撃がかけられ、反動勢力に加担する東学館は、文部権力に温存されている……』ということがいわれている。これはどういうことか。これほど東学館を侮辱した言葉はない。強く自己批判を要求する！」発言者は、激しくたたきつけるようにいった。「その通りだ、答えろ！」はげしく怒声が飛ぶ。

中執からは答なし。東学館の館生がマイクに向って喋り始めた。「全国の寮友諸君に訴えます。中執は一日の紳士協定を一方的に破棄し……」前の方の席から野次が一斉に飛び聞えない。「われわれ四寮代表の代議員権を認めようとしませんでした。事実経過は、著しく歪曲され、中執の手落ちは完全に、陰蔽されています……われわれ今回の議場の混乱の責任は……」すぐに緊急提案がだされる—が、聞えない。多分東学館、雄迦寮に不利な提案だったのだろう。「動議！」「動議！」と一斉に館生の挙手。だが指名されたのは最前列に近い席だった。「動議！」「暴力事件については時間を決めて討論し、すぐに基調報告、対案の採決に入る」「一橋大の星山君からこのような動議がだされました」「支持される方！」拍手が一斉の起る。「反対意見を求めます」東学館か雄迦寮かわからない発言もほとんど聞えない。誰かが前の方の席でシュプレヒコールをやっている。「賛成意見！」誰かが喋る。「最も重要なことは何のために今日全寮連大会が開かれたのか、全国の寮友諸君が……今大会に何を期待しているのかということです。全寮連大会を成功させましょう。暴力による大会破壊の行為に対して最後まで……」「事実経過を明らかにしろ！」「きたない！民主的にやれ！」罵声と拍手が入り混って何もわからない。東学館、雄迦の寮生がバラバラと議場へ駆け上った。「暴力反対！ボォリョクハンタイ」一斉拍子を打ち鳴らしながら叫ぶ。議場占拠は一瞬にしてなされた。誰かが怒鳴るようにアジテーションをやっているのだが何も聞えない。代議員数二三二を確認したときから、ずっと議場閉鎖である。どのくらい時間が経ってどう落ちついたのかわからないが、全員席に着いて議事が再開された。騒然たる雰囲気で議事は全く進行しない。「沖縄を返せ」とかあまり耳なれぬ歌が会場全体に響きわたっている。突然議事が進行され始めた。議場占拠が行なわれる。またもやボオリョクハンタイにシュプレヒコールであった。「警備」の腕章とオブザーバーが議場占拠を阻止しようとして壇上で押し合い乱闘になる。歌はずっと続いている。もう一度、着席し三度目の議場占拠。最後四度目の議場占拠が行なわれようとしたのは8時過ぎだった。待期していた主流の学生百人以上が一斉に壇上へ上る。と、委員長を一番奥へ入れてピケットを張った。

反主流の学生がピケを外そうとしたがもう間に合わない。秋広委員長はピケットの一番奥でシュプレヒコールを始めた。「全寮連を守れ！」代議員、オブザーバーは立上って反主流派をとりかこみ、「暴力はやめろ！」「大会を成功させよう」とこれに和す。時計みると九時過ぎだった。歌声の真中に五十人位が閉じ込められてしまった。歌声が大きくない、また小さくなる。かと思うとシュプレヒコールに変わる。東学館、雄迦寮としても引くことはできない。譲歩は処分とストレートに結びつくからであり、中執も消えてしまうからである。彼らの押してきた原則論も正当性は絶対に自らの非を認めはしないだろう。周囲は人の波、歌を歌っている。私は、任務を放棄してしまったのか？私を取り囲んで歌を歌っている人々は団結しているのか、私を敵として追い出そうとしているのか、疲労とともに"敗北"が重く私にのしかかって来た。周囲をずっと眺めまわす。どの顔も何かに酔わされている感じだ。シュプレヒコールの度におずおずと挙げられていた手に少しずつ力が入って行く、拳がしっかりと握られて行くのを、つぶさに観察していた。突然、ドアの外にかなりの数の足音が響き、警備員がドアへ殺到する。学館も雄迦も。十時過ぎ学館の学生が三十人ほど、議場へ入って来た。彼等は頭、顔に負傷していた。数人は真新しい一尺余りの角材を持っている。"トロッキストの殴り込み"ということになったのか、会場全体からボオリョクハンタイの叫びが上る。シュプレヒコールしている代議員、オブザーバーに、頭から血を流している学館生が「暴力に反対する諸君がこんなものを持って来たんだ。外にはヘルメットをかぶった民青が百人ほどいるんだ。この混棒を持ってな。」と問題の角材を見せていたが、全然信用されていないらしかった。私の友人が確かめたところ、事実だった。約百八、ヘルメットをかぶり、手には角材を持っている。「誰か」の問いに対して「民青の……だ」と答えたのだという。

東学館の館生は机を壊して、混棒を作り始めた。会場の代議員は、何も知らずに「暴力反対」をますます強く叫ぶばかりである。関西ではこんな事件があるわけはないし、私自身もすっかり驚いてしまっていた。議場閉鎖の理由も今になってやっとわかったし、八時の議場ピケットも、その後聞いた情報によってはっきり理解できた。（あの時すでに混棒部隊と中執の連絡はとれていたのだ）

私は相互の代表者間に何度か交渉を試みたが、無駄だった。十一時、外部の混棒部隊は約二百に増えているという情報が入った。更に乱闘になれば、大学側として機動隊導入も考えざるを得ない、ということも聞いた。「断固やるべきだ！」すでに乱闘後で入ってきた学館の学生は意志統一したらしかった。歌声とシュプレヒコールが会場全体に大きな興奮の渦を作り上げていた。三日間にわたる有形、無形の対立、抗争が今やここにその全貌を表わそうとしている。十一時十五分、最後に学館の代表が「このような事態を収拾し、議事を両論進行するためには、外にいる武装した者を解散させ、しかる後にわれわれが混棒を捨てる他に道は無い」といった。それに対する秋広委員長の解答は「場内にいる混棒を持ったもの退場しない限り議事は再開しない」であった。学館、雄迦寮の学生が、ドアのところへ黒板を運びバリケードを築こうにも、材料が何も無かった。その時になって、初めて、主流派の殴り込みがあることを知った代議員、オブザーバーが席を立って移動し始めたが、何処へ行ってよいのかわからないのである。マイクが [illegible] ！」という怒声とともに、全学連系学生が突撃し、学館雄迦寮を一挙に片隅へ追いつめてしまった。ここで「いかなる暴力にも反対する」と主張してきた学生が、一斉に拍手し、歓声をあげて「もっとやれ！」といい始めた。既に"乱闘"は終って逃げる反主流派を、ドアまでずらりと並んだ民青の諸君が順番に殴っているという事態に対してである。これらの人々に、真に代議員権対案の問題を考える態度とその権利が有ったのだろうか？"分裂主義者の大会破壊行為"を粉砕した"彼らは「万才！」「万才！」を唱え拍手をしていた。そしてお茶大の諸君やわれわれに対して"分裂主義者がいるぞ！でていけ"といったのである。更に「大口がいるぞ！やっちまえ！」入口はまだ混雑していたがわれわれはそこを出た。その後の情報によると、彼らは基調報告を賛成〇で採決、対案を反対〇で否決、更に東学館と雄迦寮の権利停止を決議したそうである。全寮連の方針に反対しているいくつかの寮の代表が決議の場にいたことを。私は知っている。代議員の一人一人が自己の意志表明もできぬ"暴力装置"付きのファッショ的な議事運営が行なわれたことを知った。彼らは「事実」を否決し、更に正当な権利を要求する行動に対して処分で臨んだのである。反対派の主張を不当に圧殺し、それに反抗すれば追放するという彼等の態度が全国寮自治会連合を「全寮連」にしていることは明らかであろう。

（文学部二回生）

"ローマは一日にしてならず。
この味、この評判も……。
さえら食堂
四条店 河・四条下ル
三条店 河・三条上ル
桃山店 伏見・大手筋

▽お詫び△二二九〇号第一面ニュースで、同学会全学区代議員の当選者得票数の中で、「西村清一A429」（統一会議）とあるのは統一派所属ですので、統一派に訂正します。

▽組違い△二二八九号七面学園論壇中、一部組違いがありましたので次のように訂正します。「なぜならアラースの言葉を借りるなら仙」の後には最下段の右より四行目の「値の序列に対して不正がなされると、まさにこの不正のなされた個所において、それに対する報いが来るからである。」に続き更にそのまま文章が続いて、「……決して未来に」まで行き、ここから一番最初の組違いの個所「目を向けた建設的態度ではない。…」に続きます。そして文章はこのまま続き最下段の「…人間は地」の所まで行き、そこから「決して未来に」の所の「…上的ユートピアを…」の文章に続きます、なお法学部二回生は法学部二回生に、副題の「真の自由とは何か」は「過去・現在・未来」と訂正します。

自衛官入学について質問状

＝三者連名で＝

工学研究科大学院連絡会、自衛官問題学部対策会議、工学部学生自治会の三者連名で、七月二日自衛官問題について工学部教授会に対し公開質問状を出した。公開質問状の内容は①自衛官の人数、身分、学科名をあきらかにする②自衛隊から工学部長宛に来ている依頼書の内容をあきらかにする③六月九日に提出した六九〇名の署名の措置について、教授会の態度をあきらかにする、という三項目で、これが質問事項となっている。この公開質問状に対して九日までに、工学部の職員、院生、全員に明示するよう要請している。

新潮社
さわやかな初夏の読書に！……話題作をお届けします。
新刊／重版
東京都新宿区矢来町
振替 東京 八〇八番

夏草冬涛
井上 靖 自伝的長編！
陽光を浴びて健やかに育ちゆく少年の世界—著者の若き日の体験を回想の豊かな抒情に包んで綴る。幼年時代を描いた名作「しろばんば」の続編ともいうべき力作。価520円

沈黙
遠藤周作 純文学書下ろし特別作品
神の存在、背教の心理、東洋と西洋の思想的断絶等、現代的課題を追究する。久々に発表された力感溢れる文学作品として、読書界に絶大な反響を呼ぶ！ 増刷出来・価470円

溺れ谷
松本清張 長編最新作！
製糖会社社長川上と糖業界の音怪な取り引き！その周囲に暗躍する悪徳記者！ 自由化を巡って無気味に揺れ動く砂糖業界を背景に、現代の病巣をあばく話題作。価400円

人間の運命（第2部 第3巻）愛と死
芹沢光治良 書下ろし大河小説！
激動の昭和史を生き抜く日本人の運命を刻んで感動を呼ぶ大作。本巻では、愛と思想に苦悩する人々の姿を中心に軍国主義の嵐に翻弄される知識人の苦悩を追究する。価400円

落花流水
川端康成 戦後初めての随想集！
秋風立つ高原に、知友の一期を嘆き故人の面影をしのぶ。枕草子を読み、美しい女優の人生の哀歓を視る。芸術論、旧作回想、海外通信等々、美の本源をみつめる随想集。価700円

天上の花—三好達治抄—
萩原葉子 ユニークな伝記！
漂泊の詩人三好達治のありし日を懐かしみながら折々の回想を綴り、詩人のうちに秘めた愛と憎悪の姿をあざやかに再現する。詩と詩人の生命を解明する見事な一巻。価420円

良友・悪友
安岡章太郎 軽妙洒脱な作家論！
梅田鉄三郎、吉行淳之介、遠藤周作、庄野潤三、小島信夫、三浦朱門等、現文壇の第一線に活躍する先輩同輩との心あたたまる交友をユーモラスに描く。増刷出来・価380円

ポケットの穴 男性自身—第2部—
山口 瞳
マジメ人間のさりげない微笑にあふれたほろ苦い人生の哀歓……「ポケットの穴」「わたくしの私」「いたずら」「バンザイ屋」「酒飲みの休日」等五十話。増刷出来・価330円

新潮社のロングセラー！ 大増刷出来！

わが日常　小泉信三　850
勇気ある自由人、愛国者として深く敬愛される著者の自適になる珠玉随筆65編を収める。

芭蕉（その鑑賞と批評）　山本健吉　800
偉大な詩人芭蕉の生涯を辿り、その詩の世界を克明に探究する。〈芸術院賞〉受賞の名著。

ながい坂〈上下〉　山本周五郎　各450
一藩士三浦主水正の〈勇気ある人生〉〈人生きることの厳しさ〉を語る人間探究の書。

山本五十六　阿川弘之　420
劇的昭和史に躍動する悲劇の提督の人間像をあますところなく描いて、絶讃を集める！

わたしの音楽室（LP300選）　吉田秀和　550
数多くの名盤、名演の中から珠玉のLPを厳選、紹介する。最新盤をも加えた増補改訂版。

萩原朔太郎全集〈全5巻〉　各1300
日本近代詩上に不滅の足跡を残した萩原朔太郎の全詩業を完璧に集大成した決定版全集！

日本を見つめる地方の目

農民も人間なのに

戦後二十年一、初の四万年は、いろいろの面を含めて、発展の時期となった。日本にいろいろな問題があったにせよ、今回は、地方に目をつけた。（編集部）

近年、都市化と地方文化の格差が問題となり、さまざまな格差の原因が問題となった。「農民の方のための文化機関を置いてもらった。」

いろいろ、農民の問題としたのは、農業従事者人口が、そのなかで、農業経営の規模をどうしてゆくか、ということが、まず、問題になっているはずである。農業経営の問題としては、人間だけが、のこされている。そのなかでの問題としてのものは、まず、労働の能力の問題である。

（後略）

人間不在の行政

大衆の日常語で語られねばならぬこと

大牟羅良

私はこの非常な変化を見たのは、ちょうど、昭和二十一年、敗戦後の直前に、行われた、ドッジ氏の三原書の会議を、と、言う。

（後略）

市民ケーン

映画評

・O・ウェルズ
・製作・脚本・監督・主演

オレ自身が主人公の映画、好きなんだ。あの、市民ケーンは、我々大衆、とくに、今日、市民ケーンを見ようと、とくに、今日、市民ケーンを見ようと、

（後略）

何てったって金のある奴は

（後略）

京大の前線

京大病院(1)

無給医制という労働搾取の矛盾

（後略）

新刊紹介

不毛な対話による失敗

自己のものとするものに欠ける

川崎一郎

現代青年に訴う

（後略）

面白くまとめた世界文化〝太平記〟

ジョヴァンニの人と思想を紹介

（後略）

増刊 朝日ジャーナル 7.20 発売中 80円

論文特集 大学革命への提言 大学・わたしはこう考える

大学理念と学問の自由 ❶産業社会での大学自治確立を　森毅／❷全教育体系の自由を貫け　田浦武雄

現代学生像と女子学生論 ❶大学とは"仮の宿"か　尼ヶ崎彬／❷女子職業の開発をめざして　藤井治枝

制度の改革と提案 ❶古い研究体制を打破せよ　生越忠／❷多人数教育は可能である　斎藤諦淳／❸競争原理の上に専門教育を　柚井林二郎／❹大学院を地域的に統合　鈴木守

日本文化と地方大学 育英資金の拡充とエリート教育　杉本波留夫

■グラビア 学生運動・日本とアメリカ

座談会 ❶入試四氏の円卓討議　尼ヶ崎彬・生越忠・斎藤諦淳・森毅／❷論文選考に参画して　磯井正久・永井道雄・中内敏夫・馬場四郎

表紙一絵・須賀郁夫　構成・山城隆一　目次・扉構成一栗津潔

朝日新聞社

産業とともに歩む 日本興業銀行

日本興業銀行は創立以来60余年、常に産業金融のリーダーとして一貫した歩みを続け、長期事業資金の供給に中心的な役割を果たしてきました。開放経済時代を迎え、さらに厳しい国際競争に臨まんとしている日本産業の、よき理解者、協力者として、興銀の役割は今後ますますその重要性をましていくでしょう。

■創立＝明治35年3月　■資本金＝200億円　■本店＝東京都千代田区丸の内1－8　TEL.216－0251

みなぎる若さとフロンティア精神

住友系唯一の貿易商事会社として戦後発足、抜群の成長力を誇る当社は、新進気鋭ファイトある諸君に絶好の活躍舞台を提供します。

採用関係連絡先
本　社　大阪市東区北浜5丁目15番地　TEL　大阪(203) 1221(代)

店舗数　国内29店　海外51店
資本金　70億円
従業員　約4,550名

住友商事株式会社